

勝央中学校 コミュニティ・スクール だより

「第56回学校運営協議会」(R2年度 第3回)

令和2年10月

9月17日、本年度第3回目となる、第56回学校運営協議会が開かれました。

野上会長、中島教育長、竹内校長のあいさつで開会。新型コロナウイルス感染予防のため、体育会が学年別開催となったが、生徒が主体的に頑張っていた。また、町をあげて取り組みをしている「返事・あいさつ・くつそろえ」に対し、「あいさつの倍返し・先手必勝のあいさつ」に取り組んでいる学校の紹介等の後、協議が行われました。

【協議】

(1) 学校から報告

① 学校の様子

先日、体育会を無事終えることができた。コロナウイルス感染拡大防止のため、学年別分散開催となった。それぞれの学年の色を出し、頑張っていた。夏休み中の生活では、川遊びに対する連絡が数回あり、学校でも安全についての話をした。また、不登校傾向の生徒がやや増えていることについての報告をした。

(2) 本年度の指導の重点

① 確かな学力の育成

・1学期にとった授業アンケートを基に「分かる・できる」を分析し、それぞれの授業づくりにどうつなげていくのか研修をした。

② 豊かな心の育成

・ぴあっこ育成プロジェクト

校内研修で、「ぴあっこ育成プロジェクト」をはじめ8年目となる。学校適応感や自治的風土の向上、問題行動や不登校生徒の減少を目標に、4つの部会(協同学習・ピアサポート・アセス・SEL)に分かれて取り組んでいる。



(3) 協議・審議より

- ・先生方が、分かりやすい授業をするために日々、努力をしてくれている様子がうかがえた。
- ・(不登校の要因は様々であるが、) 全体的に、コミュニケーションスキルが格段に低くなっている。少子化も原因だろうか、大勢の中でもまれていないようだ。ゲームやメディアの影響もあるように思われる。
- ・次回は、生徒会サミットでの発表をふまえ、生徒と交流ができる。生の声が聞けることを楽しみにしている。
- ・道徳は教科となり、今は評価が必要。思春期になると、「自分はできる」自己肯定感から「どうせ自分はできない」自己否定感へと変化していく。良い行動を積み重ね、プラス思考の共有感もてていけたら良いと考えている。
- ・学校は改革をしなければならない。それぞれの取組については、先生方が納得感をもたなければならない。SELといった名前がついている取組は、ほとんど上手くいく。しかし、生徒や先生方にやらされ感が発生していたり、徒労感があったりすると上手くいかないことが多い。ぴあっこ育成の取組は、バランスよくしていったほうが良い。
- ・夏休み中に川遊びに関する話から、地域で集まれる場所があるのか。地域として何ができるかを探していくことが大切だ。

(4) PTAより

- ・10月17日(土)の勝央町PTA連合会の教育講演会、11月15日(日)の金太郎保護者会の呼びかけがありました。また、1学期に各地区から上がった危険箇所については、町に「環境整備に関する要望書」として提出したと報告がありました。生徒やPTAの活動の様子やお知らせは、ホームページに掲載しています。「勝央中学校」で検索をしてみてください。(http://gakuji.town.shoo.lg.jp/shoo-mh/)